

平成 27 年度 生駒市行政改革推進委員会
第 3 回 会議録

開催日時 平成 27 年 10 月 2 日（金） 午前 10 時～正午
開催場所 生駒市役所 4 階 403・404 会議室

出席者

- （委 員） 森委員長、松岡副委員長、藤堂委員、谷中委員、小林委員、塚原委員、
一柳委員
（事務局） 西川企画政策課長、小澤企画政策課課長補佐、島田企画政策課副主事、
片山企画政策課係員
（傍聴者） なし

欠席者 下野委員

1 開会

2 案件

(1) 後期行動計画の取組状況の確認について

（森委員長） 前回に引き続き、行政改革大綱後期行動計画の取組状況についての評価を決定していきたいと思う。

1.1. 環境マネジメントシステムの推進による公共施設の省エネルギー化【重点】

（森委員長） 事務局案は C 評価だが、一柳委員から B 評価の方が良いのではないかという意見が出ている。

（一柳委員） 個々の取組状況の区分が全て B 評価なので B 評価の方が良いのではないかと思う。

（事務局） 数値目標の達成率を機械的に判断して C 評価となった。

（森委員長） 「道路照明施設の LED 化」について、平成 26 年度は更新率 0%ということだが更新できなかった理由はあるのか。

（事務局） 担当課に確認したところ、LED よりコストが安く、電力が長持ちする無電極放電ランプを導入する方向に変更した。今年度から更新作業が実施され、平成 27 年度は約 350 件、平成 28 年度は約 1000 件更新する予定をしている。また、点検に関しては、当初点検対象に挙げてなかった照明に対しても点検を行ったため、今年度の目標水準である対象総数を上回る結

果となった。

(森 委 員 長) 点検をベースにより良い方向に進めているとのことであれば B 評価でも良いと思う。意見はあるか。

(各 委 員) 意見なし。

1 2. ごみ半減プランの推進【重点】

(森 委 員 長) 取組全体に対して、藤堂委員と谷中委員から意見が出ている。事務局案は A 評価となっている。意見はあるか。

(藤 堂 委 員) ごみ減量化に向けてすべきことはしているので A 評価でも良いと思うが、最終目標から考えると B 評価が妥当ではないかと思う。

(谷 中 委 員) 個々の取組区分に対する評価が B 評価と C 評価なので、数値目標が良いというだけで A 評価を与えるのはどうかと思う。

(藤 堂 委 員) 有料化の実施でごみは減ってきていると思うが、半減するには生ごみや資源ごみに対する取組も必要だと思う。

(森 委 員 長) 市民の生活実感も大事な判断基準だと思うが。

(小 林 委 員) 実感的には 12%以上減っているのではないかと思うが、半減まではしていない。

(森 委 員 長) 下野委員からも大幅に減っているという意見が出ているので、市民の生活実感としては減っているのだと思う。

(藤 堂 委 員) 有料化に慣れてきてリバウンドすることも考えられるので、もう少し状況を見守る必要がある。

(塚 原 委 員) 公共的な施設においても資源ごみが有料となるのはなぜなのか。

(事 務 局) 家庭系ごみは生駒市が処理する義務があるが、事業系ごみは事業者が処理するという事になっている。

(森 委 員 長) この委員会で議論することではないだろうが、公共的な事業を行っている事業者に対する負担軽減措置等も検討する必要があると思う。意見を伺っていると、この項目の評価に対しては、B 評価が良いのではないかと思う。意見はあるか。

(小 林 委 員) ごみ半減を最終目標とするのであれば、各年度の目標設定をもう少し具体的にした方が良いのではないかと思う。

(事 務 局) 後期行動計画では、家庭系燃えるごみを各年度に何%削減するかを数値目標として掲げている。

(小 林 委 員) 最終年度でも 50%に届かないが、これと半減は別問題なのか。

(事 務 局) 「ごみ半減プラン」の一部になっている。家庭系燃えるごみ以外にも、生ごみや資源ごみがあるので、それらも含めて半減化を目指す取組を行っていく。

(森 委 員 長) 「ごみ半減プランの推進」が単なるスローガンにならないようにしてほしい。他に意見はあるか。

(各 委 員) 意見なし。

1 3 . 財政計画に基づく経常収支比率等の指標管理【重点】

(森 委 員 長) 事務局案は B 評価となっている。県内他市町村や類似団体と比較しても、財政指標を示す数値はとても良いが、財政状況を良くするために本来必要な施策・事業を実施していないということならば本末転倒だと思うが、意見はあるか。

(藤 堂 委 員) ハード面の補修等においては、適切に行われていると思う。ソフト面においては、子育て支援に力を入れているが、高齢者対策についても適切なサービスや施策を検討してほしい。サービスは低下していないと思うが、今後高齢者が大幅に増加するとサービスが行き渡るとかどうかが不安な部分もある。

(森 委 員 長) 今後、福祉関係で必要経費が大幅に増加することが見込まれるが、それを増やす余地を確保していることは評価できると思う。B 評価で良いと思う。意見はあるか。

(各 委 員) 意見なし。

1 4 . 中長期的な税財源等の安定確保に向けた重点投資【重点】

(森 委 員 長) 取組全体に対して、一柳委員から意見をいただいている。事務局案は C 評価となっている。意見はあるか。

(一 柳 委 員) 「高山スーパースクールゾーン構想」については、老朽化により立替が必要な時期だったとのことだが、子育てをされている方から、整備を急ぐのではなく他のモデルとなるような良い学校を作してほしいという意見を聞いたことがある。

(藤 堂 委 員) 地元の意見も踏まえて検討を進めており、現生駒北小学校舎で平成 28 年度から小中一貫教育が始まり、平成 29 年 4 月から、生駒北中学校跡地に建設される新校舎を使用するというスケジュールで進んでいる。地元としても中途半端なものではなく、他のモデルとなるような良い学校を作してほしいと思っている。

(森 委 員 長) 良い学校を作ることは転入促進に直結するので、スーパースクールゾーンと鹿ノ台エコスクールについては、積極的に取り組んでほしい。

(事 務 局) 教育についての取組は、地方創生の総合戦略においても内外にアピールしていくつもりである。

(一 柳 委 員) 高山は交通の便が良くないので改善する必要があると思う。

(事 務 局) 交通に関しては、別の協議会で議論しており、公共交通空白地に関してはコミュニティバス導入等の検討をしているが、ある程度の利用が見込めることや道路環境等の条件がある。

(森 委 員 長) この項目における個々の取組については、順調に推進できている取組もそうでない取組もある。総合評価としては C 評価で良いと思う。意見はあるか。

(各 委 員) 意見なし。

1 5 . 市税の収納対策の推進

(森 委 員 長) 事務局案は B 評価である。着実に推進されているので、A 評価か B 評価のどちらかだと思う。何か意見はあるか。

(小 林 委 員) 達成状況を見ると A 評価でも良いと思うが、予定どおり推進されている場合が B 評価ということなら事務局案どおり B 評価で良いと思う。

(森 委 員 長) 今後の向上も期待して B 評価で良いか。

(各 委 員) 意見なし。

1 6 . 行政需要を踏まえた職員数の適正管理【重点】

(森 委 員 長) 事務局案は B 評価となっている。意見はあるか。

(事 務 局) 職員は 100%出しているだろうが、市民の期待に応えられているかどうか職員側からは判断しづらいところがある。

(谷 中 委 員) 職員に対しては、少し余裕をもって災害時等不測の事態に対処できるようにしてほしいと思う。

(松岡副委員長) 市長から言われたとおりにやるだけでなく、政策にはそれぞれ推進する理由があるので、その理由を的確に捉えながら、市民から理解が得られるような方法を考えて政策の推進を図っていく必要があると思う。

(藤 堂 委 員) 突発的な業務が発生したときに人員が足りず、通常業務にもシワ寄せがくる場合がある。通常業務以外の業務が発生した場合も見越して人員体制を考える必要があると思う。

(谷 中 委 員) 減らすことの方が市民の理解を得られやすいのだろうが、必要であるならば堂々と人員を増やしても良いのではないか。

(塚 原 委 員) 女性の社会進出も進んできているが、女性職員の割合についてどのように考えているのか。

(事 務 局) 管理職における女性割合を目標で定めている。また、女性職員のみでプロジェクトチームを組織し、女性が活躍できる職場づくりについて検討し報告書が出された。新規採用職員についても女性の割合が高くなってきているので、今後、市職員全体で男女のバランスが取れていくと考えてい

る。

- (藤 堂 委 員) 職員については、必要ないところで増やす必要はないが、必要などころでは必ずしも削減にこだわる必要はないと思う。また、災害時の対応等のことを考えると市内在住の職員を増やした方が良いのではないかと思う。
- (森 委 員 長) 削減にこだわり過ぎてサービスが低下しないようにしてもらいたい。この項目は B 評価で良いと思う。よろしいか。
- (各 委 員) はい。

17. 人件費の抑制と能力・実績を重視した給与制度の構築

- (森 委 員 長) 取組全体に対して、下野委員から意見をいただいている。事務局案は B 評価となっている。人事評価制度の現状はどのようになっているのか。
- (事 務 局) 全職員に対して人事評価を実施している。これまで一律であった勤勉手当についても管理職から順に、一部若年層の職員を除き、人事評価の反映を行っている。
- (塚 原 委 員) 市町村職員に対しても、国家公務員に対する人事院勧告のようなものはあるのか。
- (事 務 局) 都道府県においては人事委員会があり勧告を行っている。市町村については、国や県の勧告等に準じて、独自で給与や手当について決定している。
- (森 委 員 長) 着実に実施されているということで、B 評価で良いか。
- (各 委 員) はい。

18. 能力と意欲に応じた柔軟な任用制度の構築【重点】

- (森 委 員 長) 事務局案は B 評価となっている。意見はあるか。
- (藤 堂 委 員) 不公平な評価が行われた場合、通報窓口はあるのか。
- (事 務 局) 実務的には人事課に相談するか、公平委員会の苦情相談制度。また組合を通じて訴えかける方法がある。
- (森 委 員 長) 着実に実施されているので B 評価で良いと思う。よろしいか。
- (各 委 員) はい。

19. 人事評価制度の効果的な運用

- (森 委 員 長) 事務局案は B 評価となっている。システムの改修は人事評価制度の効果的な運用に繋がっているのか。
- (事 務 局) システム改修をすることで、人事評価を行いやすくなった。効果的に運用を行うために改善した。

(森 委 員 長) 着実に推進されていると思うので、B評価で良いと思う。何か意見はあるか。

(各 委 員) 意見なし。

20. 職員の資質向上・能力開発の推進

(森 委 員 長) 事務局案は B 評価となっている。先進都市への視察を行ったとのことだが、その結果がどう活かされているかが不透明。

(谷 中 委 員) 個別の取組について A 評価は甘いのではないか。

(森 委 員 長) 視察に行くこと自体はとても良いことだと思うが、市職員の場合どう活かされたかが見えにくいと思う。目に見える効果ではないにしろ、効果は出ているのだと思う。C 評価だと厳しいと思うので、B 評価が妥当だと思う。よろしいか。

(各 委 員) はい。

21. 重点施策を効果的に推進できる組織機構の構築と柔軟な運営【重点】

(森 委 員 長) 事務局案は C 評価となっている。何か意見はあるか。

(谷 中 委 員) 社会情勢に合わせて組織を変更しているのだろうが、課の名前がすぐ変わると市民は混乱してしまう。

(事 務 局) 以前からご意見としていただいている。変えざるを得ないときは、前もって通知するようにしている。

(森 委 員 長) まだまだ改善する余地があるということで C 評価が妥当だと思う。意見はあるか。

(各 委 員) 特になし。

(2) その他

第4回日程確認

3 閉会

【決定事項】

事務局で「行政改革大綱後期行動計画取組状況評価報告書（案）」を作成し、次回会議で報告書を決定する。